

NKオンリーワン通信

VOL.40

新年明けまして
おめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

発行：新潟北高等学校

26011540



今年の干支は「午（うま）」。

馬にまつわることわざや慣用句は多くありますが、最も有名なものとしてはやはり人間万事塞翁が馬でしょうか。人生における幸不幸は予測しがたいものですから、おごらず、そしてくさらず、前向きに頑張っていきましょう。

さて、本校では特色ある学校づくりをめざし、県立幼稚園、県立大学等、地域との交流を行っています。11月には県立大学での講義体験、1月には県立幼稚園との体験実習「もちつき」による交流を行いました。その様子をお伝えします。

26/1/10 もちつき交流体験実習



昨年に続いて天候に恵まれた県立幼稚園との交流体験実習「もちつき」。今回の参加生徒は2学年の女子10名、男子3名の計13名。

まずは手分けをして会場の下準備。大関副園長先生の的確な指示と引率の先生方の協力で順調に作業を進める。

「おはようございまーす！」園児たちが元気に遊戯室に集合。いつもながら心が洗われる。参加者も思わずにっこり。笑顔で交流開始！

<顔合わせ交流>

大関副園長先生の進行により、参加生徒がステージ前に整列。生徒の自己紹介、代表のあいさつの後、園児たちと「幸せなら手をたたこう」「ドレミの歌」の2曲を歌う。これだけで園児たちとの距離がぐっと縮んだ感じがするから不思議。歌の力はすごいなあなどと感じている間に顔合わせ終了。園児たちはいったん教室へ。



<もちつき>

この時間を利用してすばやくもちつき会場の準備。この日注目を集めたのはなんと言っても石臼。100キロを優に超えるスーパーヘビー級で安定感抜群。まずは本校引率教諭がもちつきの見本を披露。園児たちも「よいしょ!!」の掛け声で元気いっぱい。見本の後はいよいよ年長「ほし組」さんによるもちつき。補助生徒のリードで2人で力を合わせておもちをついていく。みんなとっても上手にできました。豆絞りの手ぬぐいもかっこよくきまっていたよ。

今年は昨年の「きなこもち」に加えてこしあんを使った「あんころもち」も用意。もちつきと同時進行で、参加生徒による調理が進む。引率の先生とお餅屋さんの指導のおかげで、みるみるうちに重さ10キロ、およそ100人分のごちそうが順調に作られていった。



<いただきます>

もちつきが終わり、会食の会場設営が整ったところでまずは年少の「つくし組」と「すみれ組」さんが「きなこもち」と「あんころもち」の好きな方を選んで教室へ。遊戯室では年中の「さくら組」さん、年長の「ほし組」さんが席について会食。園長先生（新潟北高校校長と兼務）をはじめ、園の先生方、引率の先生方、参加生徒も園児にまざってみんなでいっしょに「いただきます」。おもちは昨年よりちょっと大きめだったけど、おかわりしてくれる園児たちもたくさんいた。テーブルごとに会話が弾み、また新聞やテレビの取材もたくさん来てくれて、とっても賑やかな会食となった。



<一緒にダンス>

後片付けの後は園児とのダンスの時間。園長先生、参加生徒も一緒に「セブンステップス」を元気に踊る。参加生徒も練習の成果で順調に対応、大いに盛り上がった。



<お別れの会>

園児たちの前で生徒代表2名が感想を發表したあとはお別れの時間。最後は恒例のハイタッチでさようなら。楽しい時間はあっという間に終了した。



幼稚園の先生方のおかげで、そして園児たちのおかげで、今年も素晴らしい時間を共有することができた。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



参加生徒も最後まで元気に明るく、よく頑張ったと思います。



一人ひとりが「参加して本当によかった」と実感できた交流体験実習だったのではないだろうか。わずか半日とはいえ、自分の貴重な財産となったはずである。体験で得た財産は使わずにほおっておけば価値はどんどん下がるもの。どう活かしていくか、それがこれからの本当の勝負なのであった。

25/11/11 県立大学講義体験 アカデミックへ



新潟北高校は半径1 km以内に、県内で唯一の「県立大学と県立幼稚園」がある。連携するにはとっ

ても便利だネ。県立幼稚園との交流は、体育祭でお互いに盛り上がったことをVOL.39でも伝えたが、新年に入ってからもう

くつかイベントがあり、生徒も園児も職員も超楽しみにしている。今回の紹介するのは、県立大学の講義体験だ！ 本校は就職する生徒が多いが、進路希望にかかわらず、近くにあるいい大学を実際に体験してみようということで行われた。学生食堂でランチをとってちょっと大学生気分は、時間の関係で次回にしようと思う。今回受け入れてくださったのは、人間生活学部子ども学科教授の斉藤美和子先生だ。この日は嵐の吹きすさぶ寒い日であったが、先生は生徒が快適に過ごせるように、暖房稼働の時期ではないのに、この講義室だけ特別に暖かくしてくれていた。これぞ、お

・も・て・な・し。ふだん元気のよい生徒も、ここでは借りてきたネコのようにだった。先生がインドネシアのケチャのリズムを利用したエクササイズでアイスブレイキングをしてくれた。和やかになったところで、東日本大震災での音楽、インド式九九、アメリカの高齢者の合唱団、ベネズエラにおける



社会教育・政策などの話やDVD視聴があり、音楽の効用・社会的に果たす役割について理解することができた。そういえば音楽に癒されたり、元気をもらったりすることって、生きていてあるよな～。斉藤教授、ありがとうございました!!

この広報は、新潟北高等学校ホームページ

http://www.niigataki-h.nein.ed.jp/gakkou/top_gakkou.htmlにも掲載しています。